第二問（配点　文系30　理系20）

18/30

		採点欄
一	ア　いるかいないように見えて	0
	エ　男親は心づかいが細かくないものなので	3
	オ　限界があるような道	0
	ク　涙を流しているので	0
二	幼い娘を残してどうすることもできず自分が死んでしまうこと。	2
三	そうはいってもあなたが姫君を見捨てなさることはないでしょう	5
四	前斎宮の、西院の上が病気で死にそうなのに何もできず悲しい気持ち	3
五	私がどうして少しでも姫君をいいかげんに扱いましょうか。	5

文のみ

一、ア「ありし」＝昔の様子。「し」は過去の助動詞「き」連体形。
「（今は）昔の様子ではなく」が直訳。

オ「限り」とは何の「限り」か？ ↓ 寿命の「限り」。

ク「せき」は、「せき止める」の「せき」。「てかぬ」は「てできない」の意。
接続助詞「に」の解釈にも気を配ること。

二、「うしろめたげ（なり）」＝気がかりな様子だ。
何が気がかりなのか？ ↓ △ 姫を残して自分が死ぬこと
○ 自分の死後、姫が大切にされるかどうかということ。

四、直前の記述「今までおぼつかなくて過ぐしてけるよ」を踏まえることが必要。
※傍線部の直前が引用の格助詞「と」であることを見落としちゃダメ！

※大まかな文脈が読みとれていても、文法・単語に注意して精密に解答を作成しないと無駄に失点してしまいます。肝に銘じて復習して下さい。